

校長通信

Morifun

<卒業式 169名 巣立つ>

3月1日(月)に無事卒業式が行われました。‘無事’というのも変な表現ですが、昨年のコロナによる中止のことを考えると、どうしてもこういう表現になってしまいます。169名が本校を巣立っていきました。本来であれば、在校生に見送られて…というのが常ですが、生徒会執行部の7名が代表として参加しました。

式辞「With action, anything in life is possible. 『行動すれば、人生ではどんなことも可能になる』人生において最も重要なことは、「志」を立てることです。自分の人生をどのように生きてゆくのか。どの道を進んでいくのか。それを自らの心に問いかけ、進むべき道を決めること。これが、主体的に生きる価値観を持つということです。「志」に大きい小さいはありません。「志」は自らの意思そのものです。なにより大切なのは、自分の人生の「主人公」は自分であるということに気がつくこと。どんなときにも、自分が主体であるという意識を持つことが、なにより大切です。そのような生き方を身に付ければ何事にも自らが主体的に取り組むことができ、「思考する」、「創造する」という行為が確実に行われ、新しい発想が生まれてくるのです。どうか「志」を持って行動してください。そして己の人生の可能性を切り開いてください。」

送辞(2年4組山田拓巳君)「先輩方が、この学校から巣立っていかれることは、お祝いすべきことであると同時に、非常に寂しいことでもあります。しかし、皆さんが教えてくださった多くのことを教訓に次の代に伝えていきたいと思えます。この盛岡大学附属高等学校で学んだこと、身につけたこと、さまざまな人たちとの出会いや思い出を糧とし、皆さんが思い描く輝かしい未来に向かってご活躍されますことを心からお祈りし、送辞とさせていただきます。」

答辞(3年4組吉田大成君)「私たちは決して一人で歩んでくることはできませんでした。クラスの仲間、部活動の仲間。同じ時間を過ごした仲間がいなければ、私たちの青春の彩はないに等しいのです。日常生活の1秒1秒で、語り合い、ふざけ合いながら笑い合った日々。コースやクラスの枠を越えて夢中になって遊びぬけた昼休み。たまには授業中に居眠りしてしまい、先生に起こされ焦ったあの瞬間。一つ一つが今も鮮明に思い出されます。こんな楽しい高校生活が、明日からは訪れることがないのは、正直とても寂しいです。感謝すべき人は、もっと身近なところにもいます。それは家族です。家族の支えがなければ、ここまで歩むことはできませんでした。いつも喧嘩ばかりで、もう嫌だと何度も思ったこともあります。思春期を迎えナイフのように尖っている私たちの言葉を理解しようと、大きな心で受け止めてくれた家族の支え。普段は言えないけれど、本当に感謝しています。家族がそばにいてくれたからこそ、まっすぐここまで道を進むことができました。」

はなむけの言葉(メッセージ)(山添勝寛理事長)「コロナ禍のこの一年、学校行事も変更を余儀なくされ、学習のペースも思い通りにいかなかった人もいたかもしれません。もしかしたら悔いを残したまま学窓を巣立つ人もいるかもしれません。しかし、『いつでも、何度でもやり直せる』のが勉強です。こう考えると心が落ち着き、挑戦する意欲がわいてくるのではないのでしょうか。」

はなむけの言葉(PTA 会長田村大輔様)「人類にはウイ

ルスとの戦いに打ち克ってきた歴史があります。卒業生の皆さん、どうか負けなさい。諦めないでください。そして忘れないでください。『明けない夜はない』『止まない雨はない』この経験があったからこそ優しく、この経験を乗り越えたからこそ強く、今の自分があるのだと言える、未来を作り上げてください。」

以上、当日頂戴したことばを一部ですが紹介します。さあ、今度は在校生の皆さんが本校の主役となります。先が見えない状況は続くと思いますが、主体的に目標を持って学校生活に取り組んでください。



<卒業礼拝より>

新約聖書 コロサイの信徒への手紙 3章 14節

これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。

いよいよ卒業を迎えます。この3年間様々な経験をしたと思います、その経験がこれからの人生を支えていく大切な力になるでしょう。色々な思い出がある中、2020年度は思わぬ新型コロナウイルス感染拡大という事態に直面しました。色々な事が中止になり制限を受けました。これまで経験をしたことがない、目の前の現実をどう受け止めたらよいのか、よく分からない日々がずっと続いています。辛い、悔しい、苦しい思いをしました。計画が思い通りに進まない中、大切にしていた目標が無くなってしまおう中で、色々なことを考えたのではないのでしょうか。

この一年は本当にしんどいことでしたが、同時に、皆さんが一生懸命考えたことが、今後の皆さんの人生を支える大切な糧になると考えます。パンデミックが起こった時に、高校3年生を迎えました。この皆さんの年代の中から、これからの社会を照らす言葉や行動が生まれることを期待しています。

今回お読みした聖書の一文は印象的なものです。聖書が語る「愛」というのは、ギリシア語の「アガペー」、普段私たちが使っている「愛」という言葉と共通点もありますが、違っている部分もあります。普段私たちが使っている「愛」には、相手のことが大好き、という気持ちが込められています。聖書の「愛」は必ずしも恋人や家族といった親しい人にだけに使われるものではなく、感情的には嫌いだとか苦手だとかいう人にも使うことができる、ちょっと不思議な言葉なのです。聖書の「愛」は心の中の好き・嫌いという感情だけでなく、相手を大切にするという姿勢を表す言葉なのです。キリスト教が日本に伝わったとき、「愛」という言葉を宣教師が「ご大切」と訳しました。「愛」というものが「大切にすること」という姿勢を見事に表現しました。

平良愛香という牧師先生が書いたものの中に、「僕は一度幼なじみに『あなたのことを大嫌いだけど愛している』と言われたことがある。どうも僕の優柔不断なところに、とてもイライラしていたらしい。それでも僕を大切な存在として見てくれていた。だから嫌いだけど愛していると言われた。このことにキリスト教が教える愛の本当の意味を見出した。神を愛すること、そして人を愛すること、それは必ずしも好きになることではなく、大切な存在として受け入れることなのだ。」とありました。

私たちも家族とか友人についてイライラしてしまうことがよくあります。クラスの中にも必ず、気の合わない、苦手だと思う人がいます。そういう気持ちがあってもいいのです、でも自分の具体的な姿勢としては、相手を重んじて受け入れる、少なくとも嫌いだからといって意地悪したり、軽んじたりしないと心に決めている、それが愛の姿勢なのです。時にはぶつかりながらケンカしながらも、相手を大

切にしようとするのが聖書の「愛する」ということなのです。相手の存在をかけがえのないものとして大切にしよう、それがアガペーなのです。

皆さんもこの3年間色々なことを経験してきました。学校での勉強、部活動、課外活動、友人との出会いを通してたくさんのことを身に付けてきました。その身に付けてきたものを、結び合わせる、しっかりと自分のものにする、それが愛なのです。私たちが身に付けてきたものが本当に力を発揮するのは、そして完成に導かれるのは、愛をしっかりと持っているからです。大切な誰かのために、一生懸命考えて言葉を発し、行動するとき、これまで皆さんが身に付けてきた色々なことが、本当に力を発揮する、それがこの世界を照らす光になっていくのだと信じています。聖書が伝える「愛」に基づいて、自分のかけがえのない使命を果たしていくことができますように、そして目標・夢に向かって力強く歩んでいくことができますようにお祈りいたします。(2月26日花巻教会牧師・鈴木道也先生)

<年度末の行事より>

【2学年探究学習発表会3月4日(木)】

「総合的な探究の時間で学んだテーマについて情報発信し、情報共有を図る」を目的に、事前に1週間かけてクラスでの発表会(予選)が行われ、それぞれ代表2グループが選考され計8グループが発表を行いました。

以下は佐々木副校長先生の講評です。

「世界の葬儀」への興味から精神的、宗教的な探究に深めた発表や、部活動を通じて関心を持った使用するシューズへの探究や「自信とは何か」といったメンタルに関する探究、「やる気」や「睡眠」、「ニキビ」といった身近な疑問から深めた探究、そして、カナダの小学生へ日本の習慣や文化を紹介する英語による発表など、それぞれのグループが興味深いテーマを設定し、考察し、まさに探究を深め、見ごたえ、聞きごたえのある発表でした。教科の学習や部活動、友人との語らいを通してえた発想を探究に深めることは、これからの生き方に深みを与えてくれるものと考えます。

今回の活動をもとに、高校生活を充実させてください。

【1学年インターンシップ報告会3月4日(木)】

「それぞれの職場で体験学習したことを全体の場で発表し、職業の相互理解に努め、自己の職業選択に生かす。また、発表者及び聞く者としての態度を涵養する機会とする」という目的で報告会が開かれました。8つの事業所での体験の発表が行われ、働くことの大変さと意義を確認しました。

【先輩からのメッセージ(特進コース)3月10日(水)】

特進コースの卒業生から1・2年生に、自身の進路決定の経過(動機・準備・受験本番)に基づいてアドバイスをもらいました。6人の卒業生からは、学校推薦型選抜や総合型選抜の取組み、大学入学共通テストでの点数の取り方などを中心に、自分自身としっかり向き合うこと(将来への展望)、志望理由が明確なこと、社会問題や日々のニュース等に敏感でいること、評定を意識して毎日の勉強を頑張ること、自己アピールできる高校生活を送ることなどが話されました。また、担任の吉清水先生からは、合格者の共通点は挨拶や掃除など普通の生活がしっかりしていること、基本的生活習慣が身につけていることという言葉もありました。在校生はこれらの言葉を胸にしっかり頑張ってください。

【全国高校柔道選手権大会壮行式3月9日(火)】

60kg級 安部将矢、無差別 土屋琉空 団体戦が無くなって残念だけど、その分まで全力で頑張ってください!

<ご退職、ご異動となる先生方>

3月31日付で転退職される先生方をご紹介します。本校の教育にご尽力いただき大変ありがとうございました。先生方の今後のますますご活躍を祈念申し上げます。

ご退職：関根伊作先生(英語) 北村光昭先生(英語)
川上芳子先生(音楽) 笹山眞澄先生(国語)
崎山洋明先生(社会)

ご異動：鈴木海さん(事務室) → 法人本部企画部管財課